

プレスリリース [2024 年 6 月 24 日]

(計 2 枚)

「まち☆ベジ、もり☆もり！大作戦」を、さらに拡充して実施します！
～デジタル技術を用い、ゲーミフィケーションを取り入れた食育授業の展開～

市とカゴメ株式会社は、2022 年度に、「ベジチェック®」(※1)を活用した食育授業を共同開発し、2022 年度には市内 4 校の小学校、2023 年度には市内 11 校の小学校と 1 校の中学校で実施しました。

実施した結果、多くの児童において野菜摂取の改善が認められたことを受け、2024 年度についても、6 月下旬から翌年 3 月にかけて、市内 17 校で実施をします。

なお、本授業は、2023 年 9 月に開催された日本栄養改善学会学術総会の中で、名古屋学芸大学の高田尚美准教授より、「児童が数値の意味を理解して自身の食生活に生かすために、学校・家庭・地域が連携した食に関する指導を組織的に実践されることに期待する」との評価をいただいています。

※1「ベジチェック®」

手のひらをセンサーに約 30 秒当てるだけで簡単に推定野菜摂取量を見える化できる機器です。

野菜摂取レベルを 0 から 12.0 まで測定をすることができ、1 日の野菜摂取量 350 g を基準として 7.0 を目標レベルとしています。



■ 実施目的

市内の小学生が野菜について楽しく学び、野菜を摂取することの良さを理解したうえで、食生活の中で野菜摂取量を増やしていくことを目的としています。

■ 実施手法

ベジチェックの測定値や日々の野菜摂取状況を記録するなど、楽しくてハマってしまうゲーム要素を活用し、野菜摂取のモチベーションを高めながら行動変容を促す「ゲーミフィケーション」手法を取り入れた食育授業を展開します。

■ 食育授業の展開事例

1 野菜摂取量の測定

「まち☆ベジ」(※2)を使用した給食の提供日等に、児童一人一人が「ベジチェック®」で野菜摂取量を測定します。



※2 まち☆ベジ

町田市内在住の農業者、又は町田市内に農業経営の拠点がある農業者が、生産記録等の管理の下で生産した農産物(野菜・畜産・園芸等)のことです。



2 目標設定

児童が野菜の働きや、野菜を食べるコツや適切な野菜摂取量などを学習したうえで、今後1ヶ月間の食生活の目標設定を行います。



3 発表・振り返り

約1ヶ月後に、児童一人一人が「ベジチェック®」で野菜摂取量を測定します。児童が食生活で取組んできたことを振り返り、野菜摂取の大切さや適切な野菜摂取の方法など自分たちが学んだことを、家族や友人、地域の人達へ伝える方法等を考え、発表します。

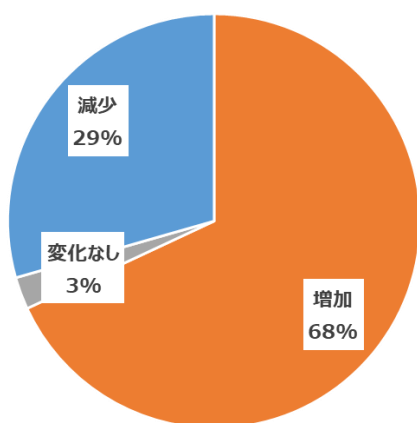


■ 2023 年度における取組み成果（鶴川第三小学校）

1 ベジチェック®の測定結果

4年生、5年生に食育授業を実施し、約7割の児童でベジチェックの測定値の向上が認められました。また、授業前と比較して1ヶ月後の平均値についても有意な向上が確認できました。

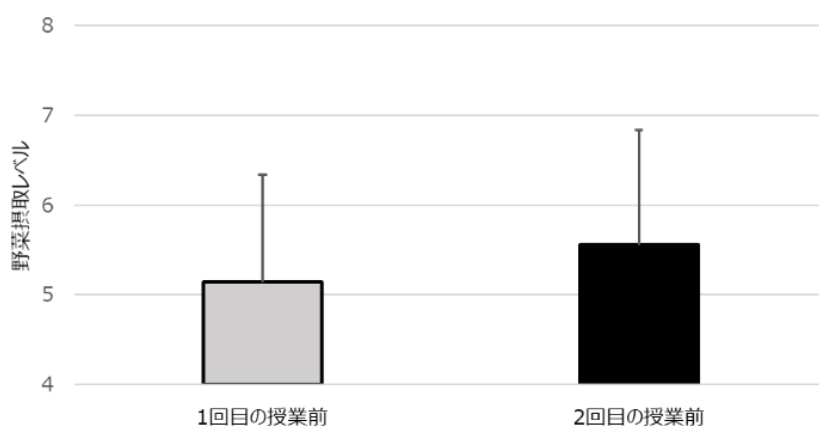
食育授業による児童の
野菜レベルの増減割合



n=119

（鶴川第三小学校の4学年、5学年の結果）

測定1回目と2回目の
平均野菜レベルの比較



2 児童・保護者アンケート

児童に対するアンケートでは、9割以上の児童が「食育授業後に意識して野菜を食べるようになった」と回答し、保護者に対するアンケートでは、約6割の家庭が「児童から野菜摂取の要望があった」と回答しました。

児童を通じて家庭の食生活改善につなげています。

■ 本件に関する問合せ先

学校教育部保健給食課 課長 林 TEL 042-724-2177